

第 197 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 3 年 10 月 29 日（金） 13：30～14：55

場 所：浜田市役所本庁講堂 AB

出席者：岡田教育長 宇津委員 金本委員 花田委員 杉野本委員

事務局 河上部長 草刈課長 山口課長 鳥居室長 田中課長

小松分室長

書記：日ノ原係長 石田主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった邊参事、猪木迫参事、龍河副参事、平岡副参事、永田副参事、濱見室長、岩崎分室長、細川分室長、馬場分室長は、欠席。

議事

1 教育長報告

2 議題

- (1) ~~歴史文化保存展示施設専門検討委員会の検討経過報告について~~（資料 1）

※取下げ

- (2) 浜田市の学力向上について（資料 6、追加資料）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

- (1) その他

1 教育長報告

岡田教育長

教育委員会定例会の開催にあたり、一言最初にお詫びを申し上げたいと思う。今回、議題に予定していた「歴史文化保存展示施設専門検討委員会の検討経過報告について」、本日は取下げをさせていただきたいと思う。現在、先般の浜田市長選の結果を受けて、この施設の今後の取扱いをどうしていくのか。市長、市長部局と改めて検討中である。こうした状況にあるため、今回、教育委員会が議題に取り上げることは時期尚早という考えに至った。ご理解いただければと思う。

10 月 17 日に浜田市長、市議会議員選挙が行われて、10 月 23 日（土）から新たな 4 年の任期がスタートした。職員への市長訓示の中で、今後若者が住みたい、帰りたいと思えるまちづくりに一層力を入れる。コロナ対応、協働のまちづくりにしっかり取

組むと決意をされた。私はそうした市政の実現には浜田市の教育に対する評価が大きく関わってくると考えている。これから教育委員会の役割は益々大きくなるものと思う。

11月1日、2日には、臨時議会が開催される。正副議長、また各種委員会の構成メンバーも臨時議会の中で決まってくる。現在、総合振興計画の策定に並行して、今後4年間の教育振興計画も策定中である。今、浜田市の教育にとっても節目の年であると思っていて、時代を見据えた取組について一緒に知恵を出して考えていきたいと思っている。

それでは、お手元の資料に基づいて報告させていただきたいと思う。

① 9月29日（水）校務支援システム三市三町オンライン会議

申し上げるまでもなく、校務の効率化を支援するシステムについて、過去、三市三町の実務担当者で研究を進めてきたが、休止していた。これを改めて立ち上げて再開する。教員の働き方改革にも繋がっていく重要なシステムであると考えている。研究を再開させたという報告である。

② 9月30日（木）校長会要望対応

特に重点要望として、校長会から挙がってきたものは、特別教室へのエアコンの設置、それから学校給食の公会計化、統合型校務支援システムの導入、小学校へのALT、外国語活動支援員制度の継続、そして中学校の部活動指導員制度の創設、こうした要望であった。多額の経費を必要とするものも多く、国や県にも支援要望をしていきたいところでもあるが、要望の趣旨は理解できるため、予算を考えながらできることから対応していきたいと考えている。

③ 10月1日（金）新人戦（バスケットボール、バレーボール、卓球）

中学校の新人戦がコロナ対策を施した上で無事に実施され、教育活動が行われたことを非常に嬉しく思っている。

④ 10月4日（月）歴史文化保存展示施設専門検討委員会（浜田まちづくりセンター）

最後の会議が開催された。

⑤ 10月8日（金）市長表敬

ろう学校の中学3年生朝付聖士さんが卓球の地区予選、中国大会を勝ち抜き、全国大会に出場予定であったが、大会そのも

のが中止となった。全国大会に出場はできなかったが、何か浜田市で報いることができないかなということで、市長表敬の計画をさせていただいたところである。

⑥ 10月19日(火) 教育委員による幼稚園訪問(石見幼・長浜幼・美川幼)

委員方にはお出かけいただき、ありがとうございました。幼稚園訪問を行って、視察や意見交換で感じられたことがあったと思う。統合幼稚園等の方針にもご意見をいただきながら活かしていきたいと思っている。

⑦ 10月20日(水) JOC ジュニアカップ U16 陸上競技大会出場者・教育長表敬(第一中学校3年生)

第一中学校3年生の牛尾壮太さんが全国陸上大会にジャベリックスロー(300g)といった種目出場された。どうしても市長の日程調整が難しかったため、教育長表敬としたところである。

⑧ 10月21日(木) 三市三町教育長会議・学力育成会議(教育センター)

この会議では島根県教育長である野津教育長も来られ、意見交換の場があった。私は浜田市の学力テストの結果から、記述式の問題、それから算数・数学に特に課題があるのではという結果が出ており、まさに今、浜田市で進めている協調学習の子ども同士が「学び合い話し合い教え合う」このことが、やはり記述式の問題に対する対策として有効ではないかという思いを強くした。この思いを野津教育長にもお伝えし、また理数科目が好きになる取組が必要だと発言をした。後ほど資料にも出てくるが、今、小中学校の児童生徒で国語が好き、まあまあ好きといった肯定的な意見が6割あるが、算数・数学は5割程度である。既に小さいうちから少し苦手意識があり、それは将来、選択肢を狭めていくため、算数・数学嫌いにならない様にやはり理数教育についても少し取組を進めていく必要があると強く感じた。

また、授業の質の向上ということでは、教職員が教材や児童生徒と向き合う時間の確保が必要であるため、働き方改革を一層進める必要があると発言している。本日の報告事項の中の資料6で、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、浜田市の授業改善に関する取組状況を分析した内容等も説明する予定で

ある。議題も取下げとなり、この点については大事なことであるため、少し時間を取って委員方のご意見をお伺いできればと思っている。

- ⑨ 10月22日（金）浜田ロータリークラブ奨学金委員会役員面談
今、浜田ロータリークラブは高校の3年間、各学年に3名ずつ月額1万円の給付型の奨学金の制度を行っている。その選考のため、中学3年生に面接等を行うということで、特にコロナ禍の状況の中、給付型で応援をしていただける非常に有難い制度である。こうした取組をしていることを改めてご紹介をしたいと思います。

- ⑩ 10月23日（土）岡本甚左衛門翁・新開開拓200年記念事業（みどり会館）

この事業は雲城まちづくりセンターが中心となり、実行委員会を設置し、岡本甚左衛門翁の新開開拓200年記念事業を開催された。学芸員による記念講演や金城中学校の生徒の有志による甚左衛門太鼓の演奏もあった。それから甚左衛門の伝記歌の創作曲披露等もあったが、50年に一度の記念事業を私は今まで聞いたことがない。浜田の偉人でもあり、地域が大切にしているということが伝わってきた。この時に甚左衛門の末裔の方も来ておられたが、金城中学校の児童生徒の甚左衛門太鼓の演奏を聞いて、眠っていた甚左衛門が目覚ましてどこかで見ているのではないかと非常に良かったと感想を述べられた。金城中学校の先生方には是非、この言葉を生徒に届けてもらいたいと伝えている。

- ⑪ 10月24日（日）島根県総合防災訓練（瀬戸ヶ島埋立地・長浜地区）

島根県総合防災訓練を実施している。

- ⑫ 10月25日（月）教育委員会ボランティア表彰（周布小、旭小：各地区防犯パトロール隊）

周布小学校、旭小学校の各地区防犯パトロール隊の方々へ表彰を行っている。

- ⑬ 10月29日（金）教育委員会ボランティア表彰（石見小：交通安全協会東支部）

実は本日も石見小学校で交通安全協会の方々の中から、10年以上を該当として安全見守りに協力していただいている方の表彰をしている。

その他のところであるが、石本前教育長が地方教育行政功労者表彰を受けられる。それから文化財審議会委員長の隅田正三さんが地域文化功労者として文部科学大臣表彰を受けられる。なかなか大臣表彰を受けられるということは少ないと思うが、2名の方が受賞されるということで非常におめでたいところである。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

各委員

特になし。

3 部長・課長等報告事項

河上部長

令和3年11月臨時会議及び12月定例会議日程(案)(資料2)

資料2をご覧いただき、先ほど教育長からも話があった様に、新しい浜田市市議会議員が選挙で決まり、11月1日、2日で臨時会議が行われて、議長、副議長、各委員会構成、委員長が決まる予定である。会派については既に決まっておき、浜田市のホームページにも公表されている。また、会派構成員名簿等もご覧いただければと思う。それから11月8日に総務文教委員会が行われ、12月定例会議については、11月30日(火)開会となる。市長も当選ということで、ここで市長の所信表明演説が行われる。12月1日から個人一般質問が行われ、最終日が12月16日(木)採決である。

ご存じの様に、今回の選挙では本日は議題の取下げをさせていただいたが、歴史文化保存展示施設については色々ご意見をいただいているため、一般質問なり委員会では、ある程度質疑があると予測している。

岡田教育長
各委員

何かご質問等はあるか。

特になし。

草刈課長

行事等予定表(資料3)

教育委員会関係の行事等予定表である。期間は10月29日から11月30日まで、委員方に出席していただきたいものについては丸を付けている。

11月19日(金)、次回の定例会に丸を付けている。次回の定

岡田教育長
各委員

例会についても講堂 AB が会場となるため、よろしく願います。

それから冒頭に教育長からも話があったが、浜田市の教育振興計画審議会が 11 月 17 日（水）、第 2 回目の審議会が開催される。

それから備考欄に別添チラシあり、資料番号が記載されているものについては、後ほど資料の報告の中でご確認いただければと思う。

行事等予定表について、ご質問等はあるか。

特になし。

山口課長

令和 3 年度学習発表会等日程（資料 4）

早い学校で本日から合唱コンクールを始めとして、行事がスタートしている。今年もコロナの感染症対策を万全にとられて実施される。運動会も保護者の方が観覧できなかった学校もあったが、今回は入場制限を設けながら見ていただくといった機会を学校は設けている。ここに記載がなかったが、雲雀丘小学校は授業参観の際に学習成果を発表するかたちで検討されている。ただ、時期的にまだ未定ということで記載はしていないが、各学校でこういった取組をされる。ただ、来賓は招かずに実施されるため、ご理解をいただければと思う。

岡田教育長
各委員

ご質問等はあるか。

特になし。

鳥居室長

令和 4 年度浜田市小・中学校学級編成基準（資料 5）

ご存じの様に、文部科学省が 35 人学級に随時、小学校は増やしていくということに伴い、島根県の少人数学級編成についても 35 人から 38 人になっていく。それに対応した編制基準である。資料の上の表をご覧ください、令和 3 年度については小学校 35 人となっているものは小学 2 年生までであった。令和 4 年度から小学 3 年生までが 35 人となる。1 年ごとに 35 人学級が小学 6 年生まで増えていく。来年度は小学 3 年生までが 35 人学級編成となり、これが文部科学省の基準である。

表の下の 1 番から 5 番まで記載があるが、これが島根県の学校編成基準ということでご理解いただければと思う。例えば 2 番のところで、「2 個学年複式学級」とは、引き続く 2 の学年の

児童又は生徒で編制する学級をいうこととある。これは文部科学省の基準で言えば、引き続くではないところも出てきたり、色々なことがあるが島根県はこのとおりである。中学校については、全て複式学級を置かずに単式学級とする等、記載がある。

5番の①から番号が続いているが、これが島根県独自の少人数学級編成の基準である。④であるが、昨年度までは中学校第3学年のみが38人の学級編成であったが、令和4年度は中学2年生と3年生が38人学級編成となる。⑤の後、一行あけて、他に以下のような場合、島根県教育委員会が配当する教員定数及び加配数で対応することを条件とし、教育委員会と学校で協議の上で決定する。これが浜田市独自の編成基準である。今まで30人学級、あるいは35人学級で、きめ細やかな指導ができていたのが、小学2年生は32人となり、中学校については第2学年、3学年が38人になっていき、今までの32人、30人、あるいは35人のところで、何とか対応ができる様にしてあげようということで、⑥をご覧いただき、概ね30人を超える学級（小学校第2学年）で複数の学級に分けて指導することが、学級経営上有効であると認める場合。⑦概ね35人を超える学級（中学校第2学年及び第3学年）で複数の学級に分けて指導することが、学校経営上有効であると認める場合というところが、浜田市の独特な学級編成基準となっている。ただし、浜田市独自で教員を加配するというのではなく、島根県が標準配当として、あるいは加配を入れて配当してきた定数の中で、1学級増やせる場合には増やしてもいいという条件となっている。したがって、学校独自で考えるのではなく、教育委員会としっかり相談の上、最終決定して学級を増やす場合には増やすということにしている。安易に加配を使うと正当な使い方をしていないということになるため、十分に教育委員会と学校で確認をしながら最終的に決定をしていく。実は今年度もこの編成基準で行っているが、浜田市の編成基準で行う学校はなかった。ただ、検討した学校は1校ほどあり、最終的には取下げをされた。以上である。

岡田教育長

少し分かりやすく、数字を咀嚼したものを申し上げる。今、小学校の表にある人数の基準の中で、島根県の場合は小学1年生が30人、2年生が32人、3年生が35人、4年、5年、6年生も35人という基準である。それから中学校についてであるが、

各委員
岡田教育長

中学1年生が35人、2年生と3年生が38人である。

この件について、ご質問等あるか。

特になし。

国も40人学級編成から、少し少人数になる様に方針を転換しており、これは嬉しいことだと思っている。島根県はそれ以上に少人数編制としていただいているが、それでも現場はなかなか教員が少ないという状況がある。なるべく少人数の制度が維持されてほしいという思いである。

資料6については、後に回させてもらってもよいか。

鳥居室長
岡田教育長

はい。

では先に、文化スポーツ課長から資料7、8をお願いする。

田中課長

浜田市資料館運営協議会委員の委嘱について（資料7）

資料7の表にある3番目の川田英樹先生に、この度就任をいただく。浜田市教育研究会社会科部会の部長の方に就いていただいております。これまで三隅小学校校長である樋野校長に就任していただいていたが、今年度、部会長を交代されて川田先生に代わったため、浜田市資料館運営協議会委員の委嘱についても川田先生をお願いをしたところである。

任期については、前任者の残任期間である令和4年3月31日までである。

令和3年度地域文化功労者文部科学大臣表彰について（資料8）

冒頭に教育長からも話があったが、令和3年度地域文化功労者文部科学大臣表彰ということで、この度、隅田正三さんが表彰を受けられた。これまで、浜田市文化財審議会委員長、それから現在も西中国山地民具を守る会会長、それから浜田市の施設である浜田市金城民俗資料館・浜田市金城歴史民俗資料館館長を務めていただいている。

表彰理由としては、永年にわたり浜田市文化財審議会委員長等を務め、地域文化の振興に貢献しているということで、この度、表彰を受けられる。

表彰式は11月1日に京都府で行われる。ご本人も参加されるということで聞いている。資料7、8についての説明は以上である。

岡田教育長

資料7、8について、ご質問等はあるか。

各委員
小松分室長

特になし。

第 31 回三隅地域「人権を考える」集い(資料 9)

演題については「人権って何ですか？」～みんなの学校が教えてくれたこと～ということで、講師に木村泰子さんを招いて開催する。

日時は 11 月 27 日(土) 13 時 30 分から、会場は浜田市三隅中央会館である。

本来であれば、昨年、木村泰子さんにお越しいたいで、人権を考える集いを行う予定にしていたが、コロナのため今年に延期とさせていただいた。現在はコロナも収まっているため、今現在はこちらにお招きしてお話をさせていただく予定で、三隅地域には案内をしている。

参加については、裏面にある参加申込書で事前に申し込みをいただいて、定員は 100 名程度の開催で計画している。お時間ございましたら、講演会にお越しいただければと思う。

岡田教育長

木村泰子講師には 8 月 20 日にも、石中央文化ホールでリモートでの開催となったが、ふれあいフォーラムを開催させていただき、そこでも話を聞かせていただいた。木村さんと私もなかなか会う機会がなかったため、この日にご挨拶できればと思っている。興味のある方、お時間の都合のつく方は事前申し込みが必要であるため、申し込みをしていただければと思う。

この件についてはよろしいか。

各委員

特になし。

2 議題

(2) 浜田市の学力向上について(資料 6、追加資料)

岡田教育長

それでは元に戻るが、学力向上推進室長から資料 6、それから本日は追加資料もあるため、この辺りを中心に浜田市の学力向上に向けて少し協議をしていきたいと思う。

説明をお願いします。

鳥居室長

それでは、10 月の校長会資料についてである。1 番は浜田市総合振興計画の目標値でもあり、小中連携教育の目標値でもある「児童生徒アンケート」の実施について、校長先生方や学校に対するお知らせをした。これを集計して、前期の小中連携教育の締めくくりとしていきたいと思っている。

2 番のところでは、全国学力・学習状況調査の結果について、

(1) 資料 B とあるが、本日は資料を付けていない。これについては、先月の教育委員会定例会で説明させていただいた資料を校長会で説明している。その後、少し詳細な分析をしたものがあり、浜田市児童生徒の正答率の特徴を一覧表にしたものを校長先生方に見ていただいている。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況であるが、これは文部科学省が分析したものに併せて浜田市の状況、島根県の状況を分析したものを校長先生方に見ていただいた。それが資料 D である。このことについては、本日、別添資料としてカラー印刷したもので後ほど説明をさせていただく。これにエッセンスを入れているため、後ほど説明させていただく。

(4) 研修会の実施ということで、3 ページをご覧ください、実は別添の資料とは、この研修会の時に使用するパワーポイントの資料になっている。なぜ研修会を開くのかということであるが、これまでも点数で言うと非常に悪い時期もあった。その中でも研修会は開いていなかったが、なぜ今回開くのかというと、授業改善に向けて算数の問題を例にすると一つ見えてきたことがあり、そこをしっかりと改善していきたい。算数だけではなく、国語、社会、理科、全てに通じる。我々が取り組んでいる「考えを深め、広げる営み」を重点として挙げているが、そこに関わるということで研修会を開かせていただくことにしている。集合研修するわけにもいかない、我々が出かけるのもなかなか日程調整が難しいということで、私と佐堂指導主事がパワーポイントで録音をしたものを録画資料として各学校に配布し、自分の学校の分析と併せて研修会を開いていただく。その様なたちでの開催を考えている。それでは実際に追加資料をご覧くださいながら説明をさせていただく。若干、時間が長くなるかもしれないが、よろしく願います。研修会の時には本日の資料 6 に付けている資料 C、D と本日の資料には付けていないが資料 B についても先生方の手元にある様にして研修会を考えている。

追加資料の 2 ページからについては、前回の定例会で説明させていただいている教科についての状況である。これを分かりやすく説明を加えたものであるが、ここについては前回報告をさせていただいているため、省略をさせていただく。

4 ページの下の表をご覧ください、前回はあまり強調していな

かったが、国語の短答式については小中学校ともに全国平均と同率又は若干上回っている。先ほど教育長も言われたが、特に小学校については記述式に課題がある。前回も申し上げたが、無回答率では全国平均を下回っており、児童生徒は何とか回答をしようとする姿勢はうかがえる。この意欲を無駄にしているのは誰だという話になる。その辺りのこともあって研修会を開こうということもある。

5 ページをご覧ください、資料 B では一覧表にして教科結果を出しているが、それを 3 問に限って少し簡単にしたものを載せている。5 ページの上の表と下の表、それぞれ国語と算数・数学であるが、これが県との比較で上回った設問のベスト 3 を出している。見ていただくと分かるが、右側に青い丸で示してあるが、一目瞭然である。これまで各学校で実施してきた知識・技能の定着に向けた取組の成果は表れている。左側の問題形式で短答式、記述式、選択式とあるが、その下に括弧として+10.8 と記載がある。例えば、小学校の国語では+10.8 とあるが、これは全国平均正答率と比べて 10.8 ポイント上回っていたということである。小学校の国語について、ここに挙げているものは全て全国を上回っている。中学校は残念ながら上段の 2 つはマイナスであるが、下の部分は上回っている。

算数・数学についても、小学校の-2.0 を除いては全国平均を上回っている。悪い悪いと言いながら、全国平均正答率を上回っているものもあるとご理解いただければと思う。

6 ページをご覧ください、次に県との比較で下回った設問のベスト 3 である。問題形式別で見ていただくとバラバラとはしているが、単純に考えるものでない設問はなかなか難しいかなという結果が出ている。下の表の小学校の算数であるが、問題番号の 2 (1)、全国平均正答率との差が-20.9 ポイントある。これは直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題であるが、我々が着目したのはここである。何でこんなことになっているのかと分析をした。そして方向性が出たため、研修会を開く。

7 ページをご覧ください、こちらについても前回お話しした部分と重なるが、明らかに高正答率層が少ない。中正答率層から高正答率層に引き上げていく必要がある。少人数授業を実施している学校については、明らかに高正答率者が多いと見えている。成績も良い。ただし、少人数加配がないとなかなかできない状況も

あるが、個に応じた指導ができるとカバーできると思う。加配がなくても何とかそういった工夫ができる、少人数指導をはじめとした個に応じた指導を実施していただきたいと思っている。

7 ページの下の表をご覧ください、先ほどの全ての教科での授業改善の手がかりとなる設問である。左上が平成 19 年度に出された問題である。見てのとおり、三角形の面積を求める問題で、底辺×高さ÷2 で求められるが、底辺は 6 cm と記載があり、高さも分かりやすく 4 cm と記載があり、この時の全国平均正答率は 89.5% であった。同じく右側の三角形の面積を求める問題であるが、これ以降段々高さが分からなくなってくる。この場合は、底辺の外側にくる高さということで底辺が分かりやすくなっている。だが、高さが数字として示されていないため、67.1% に全国平均正答率が落ちている。左下が今年度の問題であるが、明らかに高さが分からない。今までの感覚では底辺を 5 cm と思いがちだが、底辺は 5 cm ではない。だから児童生徒は戸惑ってしまった。そのため、全国の平均正答率も 55.4% であった。ただ、浜田市は右下に記載しているが、全国との差が -20.9 である。ここに浜田市の子どもたちの弱さがあるということである。

続いて 8 ページをご覧ください、こういったことを取り組んでいくと学習指導要領と関わっていかなければならない部分がある。上の表は学習指導要領そのものである。それに示された、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ということで、(1) から (7) までである。ご存じの様に、学習指導要領には法的拘束力がある。例えば、(3) コンピューターや情報通信ネットワークの活用のところで、私はパソコン苦手だからしないというのは法令違反である。どんなかたちであれやらなければならないと示されたのが (1) から (7) までである。これを受けて、学習指導要領解説総則編では、授業改善の推進ということで示してある。総則だけではなく、全ての教科の解説の中の指導計画の作成と内容の取り扱いにおいて、各教科に応じた授業改善の方針を示してある。しっかり取り組んでほしいというメッセージである。そして赤字で記載しているが、以下の 6 点に留意して取り組むことが重要であるということで、9 ページをご覧ください。アからカまでであるが、我々が着目した全ての教科において必要になるというのはエの部分である。エの部分については、後ほど総括したいと思う。承知していただきたいことが、8 ページに戻っていただき、

上の表に示されている(1)から(7)の部分を参考にしながら、文部科学省が学校質問紙や児童生徒質問紙を分析して、文科省としての授業改善に対する考察をしている。後ほど、このことに沿った浜田市の分析をお伝えしたいと思う。

9 ページの下の表をご覧ください、学校質問紙をよく見てみたら小中学校で逆の結果が出ている。ここに5つ示しているが、中学校は全国及び県の肯定的評価を上回っているが、小学校は逆に下回った設問である。中学校は若干改善気味とお話したが、小学校がうまくいっていないのはこの様な結果からも裏付けがされるところと思う。小学校は授業改善がうまくいっていない。実際に具体的な授業改善に入っていく。

10 ページをご覧ください、文部科学省からの報告書である。授業改善の取組状況①として、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に対して、肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。次に学校質問紙では、同様の質問に対して肯定的に回答した学校ほど、学校の就学援助を受けている児童生徒の割合に関わらず、全ての教科において平均正答率が高い傾向が見られた。学校質問紙は準要保護、要保護の割合についても質問があるが、それと比較してこういう回答を出してきた。就学援助等が多いから振るわないということは、あまり理由にならないということである。次に「本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか」との質問で、いわゆる図書館活用教育であるが、「週1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」と回答した割合は、平成29年度の回答から小中学校ともに25ポイント以上増加している。これに併せて浜田市はどうかということ、下の表をご覧ください。

まずは児童生徒質問紙であるが、自分で考え、自分から取り組んでいたと答えた割合はご覧のとおりである。中学校については、それでも若干改善傾向が見られる。

次に校長先生が回答した学校質問紙が11ページの上の表である。こちらについても小学校が今一つと見てとれる。中学校については、右下の表で赤い矢印がぐっと伸びている。これは校長先生の感覚であるが、生徒の回答も右上に伸びているため、中学校は改善傾向が見られている。それから我々が一番ショックを受けたのが、次の下の表である。いわゆる図書館活用教育の状況につ

いての質問であるが、小学校については極端に下がっている。県や全国と比べても経年比較で見ても下がっている。中学校についても下がり具合は少ないが、県や全国と比べると下回っている。ただ若干救いなのが、右下の改善傾向にはあるということが救いである。指定校制度を行い、2校指定して続けており、研修会も実施しているが、そのやり方を少し抜本的に見直さなければならぬと思っている。図書館活用教育の意義のところからもう一度研修をやり直していく必要があると思っている。授業公開も求めているが、授業公開だけではなく実践発表についても確実に行って、みんなで共有していく場を作っていかなければならないと思っている。そういう方向で改善していく。黄色で囲った部分に少し記載をしているが、図書館活用教育の単元一覧表等の資料は教育委員会でモデルを作って、いつでも見られるようにしてある。とにかく各学校で自校のものでなくてもいいから、教育委員会が作成した資料等を活用して、とにかく実践をしてほしいと働きかけているところである。

次に 12 ページをご覧ください、文部科学省からの授業改善の取組状況②である。「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」について、学校数はいずれも増加している。約 80%の学校で校内研修がしっかり行われている。授業においても 80%以上の学校がそのような学習活動を取り入れていると回答している。児童生徒についても、肯定的に回答した小中学校及び児童生徒の割合は増加してきていると文科省は分析している。では浜田市の状況ということで、下の表をご覧ください、これは校内研修を行っているかどうかという質問である。ご覧のとおり、行っている。浜田市では小中学校ともに主体的・対話的で深い学びに向けた校内研修はしっかり行われていると自信を持ってもいいだろうと思う。ところが 13 ページをご覧ください、学校質問紙で校長先生方の回答であるが、そういった授業において、学習活動を取り入れたのかという質問について、右下のグラフを除いて全て左側に矢印が向いている。要するに、しっかり行われていないということである。ただ中学校については、これまでよりは授業実践を行っている。小学校は特に研修を行っているが、授業実践に活かされていなのはなぜなのか。色々な要因が学校によってあると思うが、各学校併せて分析をして、対応策を打っていただくよう

に呼びかけをしている。

13 ページの下の表をご覧ください、学習活動だけでなく、「学級やグループでの話し合い等の活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という質問である。こちらについても、やはり校内研修と同じ様にあまり芳しくない状況がある。

14 ページをご覧ください、次は児童生徒への質問紙の結果である。左側の傾きは先ほどの2つよりは少ないが、下回っている。

下の表をご覧ください、文部科学省からの授業改善に関する取組状況③についてである。個に応じた指導（個別最適な学び）について、「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたか」との質問に、肯定的に回答した割合は、児童で80%以上、生徒で70%以上であった。今回の質問紙で初めて出てきた質問であった。それに併せてクロス集計して、分析をしている。先ほどの設問と併せて、「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた回答の割合が高い。それに併せて、「国語、算数・数学の勉強が好きだ」と回答した割合が高い。それはそうだろうと思う。個に応じた指導ができているため、好きだと思ってしまう。その浜田市の状況について、15 ページをご覧ください、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問で、上の段の表2つは左に矢印が向いているが、下の段の表については若干改善傾向にある。家で自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合を増やそうという取組は行われてきていると伺える。小中連携教育で家庭での時間のコントロール、メディア接触も含めるが、こういった力を高めていきたいと思いますと取組をしているが、更にもっと強化していく必要があると思う。

下の表については「国語の勉強は好きだ」という質問であるが、あまり変動がない状況である。もっともっと好きにしていこうためには、詳細な読み、分かりきったことを教科書から読み取っていく授業から脱却をして、単元を通した言語活動を設定し、課題を追求していく学習を推進していくことが必要であると思う。これについては、市教研の国語部会が我々の方針に基づいて、現在取り組んでいただいている。

続いて16 ページをご覧ください、「算数・数学の勉強は好きだ」という質問である。右下の表で中学校については、若干であるが算数・数学嫌いの生徒がいるということが厳しいなと思う。

次に全国学力・学習状況調査「算数・数学の解答類型から」～授業改善の参考として～に入りたいと思う。17 ページをご覧ください。上の表の概要報告のところで課題として挙げた文言をそのまま引っ張ってきている。先ほど特徴として表れた直角三角形の問題を下の方に挙げている。この問題を見て直角三角形の面積の公式は、底辺×高さ÷2 だからと今まで概念では1番下にある線5 cmが底辺だと思ってしまう。だが、それでは高さが分からない。どうしていいのかわからないため、取り敢えず、こうやっておこうかということをやっているのではないかと分析から見えてきた。誤答分析をしてみたら、大体こういうことだろうと見えてきた。右側に書いているが、固定概念がないか、下側が底辺と思っていないかということである。

18 ページをご覧ください。小学校の指導要領解説算数編には、「その際、三角形や四角形の底辺や高さの関係の理解を確実にすることが必要である」と解説されている。要は、どの辺を底辺にするかによって高さが変わってくるということである。その辺りの理解を子どもたちが十分にできていないため、三角形の面積で高さが分からなくなると解けなくなる。下の表に黄色く記載してあるが、問題を子どもたちと話し合う時に底辺を3 cmにしたら高さは4 cmである。4 cmを底辺にしたら、高さは3 cmであるということ、なぜ、その式になるのかと底辺と高さに注目して、ちゃんと説明させているのか。式があっているから丸ということでは終わらせていないか。というところが課題として見えてくる。

19 ページには固定概念ということでは表している。中学校では、二等辺三角形で長さの等しい2つの間の辺の角を頂角、頂角に対する辺を底辺、底辺の両端の角を底角という。底辺がBCであった場合は、底角は角B、角Cとなる。では例えば底辺をACにした時に、底角はどこになる？とある中学校の先生が聞いたら、子どもたちはどう答えたかというところ、やはり角B、角Cと答えた。要するに底辺と頂角の関係で底角を考えていない。固定概念がここにもあるということは、教えた知識を基にしていかに検証する様な活動を行っていないのかということが見えてきた。19 ページの下の方に、次は説明を記述式でやらなくてはならないが、事実を記述する説明の場合には説明する対象を明らかにして、例えば辺ABがこうだからこうだといった書き方をしなければならないが欠けている。「見通しを持ち、筋道を立てて考える」という

ことが記述にはあまり出てこないが、これが必要である。理由を記述する場合に、A だから B となるようにといった記述が欠けていて、結論だけ書いている。A という理由及び B という結論を明確にして記述できておらず、(不正解) となる。そういった細かなきちんとした説明を子どもたちにさせているか、といったところに課題がある。算数・数学だけの問題ではないとお分かりいただけたと思う。

続いて 21 ページをご覧ください、問題解決の過程における対話的学びの充実を図る。これは取組んでいるが、吟味、検討する意識が欠けていないか。結果のみで「よし」としていないか。そこに授業改善の必要があるのではないか。グループ学習を行っていても、その辺りの視点が欠けていないか。そういったことを話し合う指導をされているかということである。子どもから、「本当にそうか!」、「なぜ」、「根拠はなに?」といった呟きが聞こえるような話し合いをしていきましょうということが必要なことである。では、もう一度学習指導要領に戻り、これは再掲であるが、エの部分に着目してポイントを黄色で示している。「学習への見通しを立てる」これをどこにもっていくのか。重点とするのはどの時間なのか。「学習を振り返る」のは、どの様なやり方をさせなくてはならないのか。「学習を振り返る」とは、単元のまとめ、あるいは内容のまとめの終末だけといった意識、あるいは 1 時間終末といった意識があるが、話し合いの過程にも自分が振り返っている場面はある。そこを意識した指導をしているかということをもう一度考えていかなければならない。

次に「教師が教える場面」をどこに設定するのか。考えさせなくてもいい部分を無理して考えさせていないか。「児童生徒が考える場面」をどの様に設定しているのか。解決への手立て、見通しを持たせないまま考えさせていないか。子どもたちを苦しめる考え方をさせていないか。教師が教えた教科特有の学習語彙、先ほどの底辺あるいは底角等であるが、この言葉をきちんと使って説明をさせているか。この辺りをもう一度考え直してみましようというのが、今回の全国学力学習状況調査から見てきた浜田市で取り組んでいかなければならない課題である。非常に長い説明になったが、以上である。

岡田教育長

ありがとうございました。これは学校の先生方の授業改善に向けての研修会の説明資料であった。教育委員会定例会の中で伝え

ることが良いのかどうか、少し異質に感じられた方もおられるかもしれない。ただ、その中で色々な課題が見えてきた。グラフが4つ出ているものについて、上の2つで左側が小学校、右側が中学校であるが、上の2つが国や県と比べて浜田市はどうかということ、国や県の方が良ければ右の方へ傾く。だが、ほとんど左に傾いている状況である。下の表は、同じ浜田市の児童生徒が年々どういう意識が変わっていったのかということを見ているため、本来であれば学力調査はここを注目すべきである。他との比較ではなく、自分たちがどう変わっていくのかである。これも小学校は左側に向いて、中学校は右側に向いているが、これが大きな傾向ではないかと思う。これがまさに学力テストでの記述式の問題で表れてきているが、ではなぜ中学校ではそういった改善が進んだのかということ、私はその中に協調学習の成果が表れていると思う。これは浜田市では中学校での協調学習の取組が随分広がってきたが、小学校はまだ入っていない状況である。もしかするとそこではないかと仮説的なものを立てている状況である。それからもう1点は、学力調査は基礎学力で本当に生きる力の一部であるため、ここにどれだけの目標を置くのかということも確かにあろうとは思いますが、ただここがせめて国及び県の平均に追いついていかなければ、これも生きる力の一部である。そういった意味で、浜田市にとってもこれぐらいやらなくてはならないという課題を学校の先生方と共有をしようということで、教育委員会もなかなかここまで分析をすることは今までなかったかもしれないが、分析結果について説明をさせていただいた。

これら全般を聞かれて、浜田市の児童生徒の学力育成に向けて、どの様な感想を持たれたでしょうか。あるいは質問でも結構だが、委員方からお聞かせいただければと思う。

もう1点は、図書館活用教育や国語教育は随分と長く6、7年も力を入れてきているが、なぜこんなに後退しているのか。私は非常に残念である。ここはどうしたらいいのかということも含めて、色々な考えをお聞きしたいと思う。

杉野本委員

先ほどの説明の中で、学校としての授業改善のための研修は進んでいるが、実際に指導には改善が活かされていない。その辺りで授業改善のための研修の内容が、例えば授業改善に直接つながるものなのかどうか、かたちとして研修はしているが具体的な指

鳥居室長

導につながっていく様な研修になっているのかどうか疑問に感じたところである。この辺りはどの様に捉えておられるか。

1 つは、研修に対する意欲はあり、実践しようという思いはあるが、日々の忙しさの部分で教材研究をしっかりと行うところまで時間が取れていない、活かしかれていないのは1つある。それは校長をしていた時にも思っていたところである。部分的には授業を見て回ると、この先生は以前の授業のやり方と変わっていると見えてくるが、それを1時間通してしっかりとやっているかという確信はできないと思うところもある。

それから小学校では職員会議を毎週1回行っており、研究職員会については月に1回又は2回行っている。その中で研修を行っているが、ほぼ16時頃まで生徒がいる。その後研修会を行いたいと思っても1時間しかない。しっかり概要的などころから中身にまで入って先生方で協議をするところまでの研修になりきっていない状況があると思う。

中学校では、もっと研究職員会の時間が少なくなるため、その辺りで活かしかれていないところが出てきていると思う。ご想像どおりの回答であったかもしれない。

岡田教育長

そこを変えていかなければならないとすると、どの様な手立てがあるか。

杉野本委員

算数だったら、1つの指導過程、1時間の授業の流し方で1つの流れがイメージできれば、時間が変わってもこの時間は特に見通しを立てるところで大事に重点的に行って、授業を作っていく。ここは個人思考でしっかり考えさせて、自分の考えを持つところ、持たせるところを大事にしようとか、今日の授業は子どもたち同士で話し合うところに重点を置いていこうとか、配分は違ってくるが大体その流れをどの時間の中でも作れるのではないかと思う。そういう授業の流れをみんなでも共有する場を、具体的な授業の中で作っていかねばならないと思う。そういった指導の仕方が共有のところまで具体的にできるのかどうか。鳥居室長が言われた様に、学校現場では1時間の協議も取れるかどうかの中で研究授業を行っている。それも大きな学校であれば、3分の1ずつ、低中高学年に分けて職員が参加すると、みんなできょうやって授業をしていこうとなかなかイメージしにくいところだと思う。研究授業の回数を多くするよりも、中身の質を高めていって、みんな協議してこの授業を作る。低学年の先生でも高

学年の授業、高学年の先生でも低学年の授業を見ながら、一緒の土台で話せる様な研修も必要なのかなと思う。回数を増やすよりも中身を充実させるためには、やはり市教委なり教育事務所から指導主事に来ていただいて、適切な助言をいただきながら研修していく。そして、みんなで共有していくことが大事なことであると思う。みんなで共有できれば、私は図形の領域で実践してみたとか面積や計算の領域でやってみた等、何か作っていける様な気がする。

鳥居室長

おっしゃるとおりである。先ほどの追加資料の1番最後の再掲のところで、我々がずっと言い続けていることがあるが、1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではない。先生方は主体的で対話的で深い学びを表現されて、全国の先生方にインプットされているが、1単位時間の中で全てがあるものだと思い込んでいる。だから先ほど杉野本委員がおっしゃられた様な単元の中で軽重を付けながら、この時間は何を追求する時間なのかといった発想が少なくなっている。無理して1時間の中に詰め込んでいる。そのため、子どもたちが窮屈な思いをして、不十分なまま話し合いに入ることが行われている。我々が学校訪問に行く際には、事前に指導案審議のところから関わっている。1回だけではなく、2回、3回行くこともある。当日の授業研究の時には、例えば中学校で数学であれば昔は数学の先生しか集まらなかったが、我々の方針は我々が訪問指導する際には全職員参加を徹底してくださいとお願いしている。そのため、数学の先生の授業研究の場でも体育の先生も来られる。体育の先生でも数学の話合いに参加できる様な、子どもの学びの様子を見取って協議をしてほしい。理屈はいらない。ただ、子どもの学びの様子で良かった点、悪かった点を併せて、これからの授業改善をどの様にしていけばいいのか。そこから多少専門的なところが加わってくるが、2段階の研究授業にさせていただく様にしていって、もっともっと強化できないかというところで見えてきたことについて研修会を開催して伝えていきたいと考えているところである。

宇津委員

今、鳥居室長が言われたことに重なるが、1つの1時間の授業の中で全てが完結するわけではない。長い目で単元だったり、教材に基づく学習が積み重ねられる中で物事が完成していく。この中に場面という言葉が何回も出てきている。そういった中で1つは会話をする時間、場面なのか、あるいはぼそぼそ呟く場面なの

か。あるいは先生が教える場面なのか。そういった場面について、もう少しメリハリのある場面を作ることを考えていく必要があると思う。ずっと流しっぱなしではない様に。それからもう1つ、最後のところで出てきた「結果のみでよしとしない」であるが、小学生の授業参観をさせてもらおうと答えを言うと「いいです」で終わってしまうケースがよくあるのかなと思う。それでよしとせず、結果だけでなく導き出す過程はどうか等、子どもの思考について考える気持ちが指導者側にあれば、そこに火をつけることによって次につながる。あるいはもっと深く考えることにつながっていくのではないかという気がしている。その辺りも工夫が必要に感じる。そこはやはり研修を積み重ねることによって気付き、学習を先生方がされる必要があると思う。それから中学校は教科担任制であるため、なかなか研修をするといってもその教科だけの研修になりがちである。先ほども室長が言われた様に、全ての教科に関わってくるため、中学校といえども1つの教科に拘らずにどの先生方も数学のことについての研修会等にも参加してみる。その中で自分の教科に取り入れられるものが必ずあると思う。そういった取組を進めていただいているため、より良いと思う。

岡田教育長
鳥居室長

ありがとうございます。

先ほど少し研究協議の話をさせていただいたが、国語で学ぼうが算数で学ぼうが、目指す学び方、学ぶ姿というのはそこで専門的に出てくる言葉は違うが姿は同じである。だから最初は、授業者が想定をしてこんな授業を考える。ここの場面ではこんな発言や呟きがでることを期待しているということを示していただいて、それをみんなが持っていて授業を見て、その姿が本当にそうだったかと検証する様にしている。それだったら教科を越えて誰でもできる。学校には事務職員がおられるが、事務職員も協議に参加する。その様な視点であれば参加することができる。しっかり子どもの姿を見て事実を述べ合い、理屈はいらない。1人が理屈を言い出すと研究協議が壊れるため、理屈を言うのは後半にしてくださいというかたちで全員参加ができる様な配慮をしている。

岡田教育長

私もこの間の教育長会に参加をして、協調学習という言い方ではないまでも学び合いや話し合いをしながらの授業を進めているということはよく聞くが、それが結果に結び付いていないという

のはただ単に子どもたちだけの話し合いばかりで授業が終わっていないかとか、先ほど宇津委員からご指摘いただいた様に、当然話し合う場も必要であるし、教師がきちんと伝える場も必要であり、そういったバランスやメリハリが大切であると三市三町教育長会でも発言があった。そのため協調学習1つについても、ただ取り組むだけということではなく、効果の高い取り組み方をどう広げていくのかが大きな課題であると感じた。

その他はいかがか。

金本委員

先ほど、協調学習が小学校では進んでいないと話があったが、協調学習を何回か見させていただいて、小学校は特に学級経営が上手くいっていないと協調学習はなかなか進まないのではないかと感想を持った。小学校では担任の先生が多数の教科を持っているが、その中で持っているからやりやすいという面と反対に学級経営で困られている学級は協調学習まで持っていくのは大変であると思う場面も見られる。

それから担任を持っておられる先生は、鳥居室長がいつも言われている「子どもたちの声でつくる授業」が、どうしても担任主導になってしまっている授業が多いのかなと思う。

それから家庭学習で、もう一つ工夫がほしいと思うことが、子どもたちは宿題と捉えている。家庭学習がノルマ化しているような課題がある気がしている。基本的な漢字ドリルや音読等もあるが、自学として自分で工夫して勉強する学習ができる様に力を入れて創意工夫で、自分で考えて切り拓いていく様な場面が見られたら良いなと思った。

岡田教育長
鳥居室長

ありがとうございました。

それが文科省の設問や分析結果にも出ているが、「自分で計画を立てて勉強しているか」である。小中連携教育に家庭学習も含んでいるが、昨年度末から時間のコントロールや自分で計画を立てて勉強する子どもを作っていきたいと島根の学力推進プランにも示されている。「自分で計画を立てて勉強する」であるが、そことも連動するため、行ってくださいとも伝えているが、非常に今不安に思っている。ちらほら声を聞くが、少し低調ではないのかなと思う。先ほど金本委員がおっしゃられた自学についてだが、各中学校区で家庭学習の手引きを作成して、見直したりしながら児童生徒に配布し、保護者の方に伝える取組はしている。でももう一歩進んで、その中で自分でちゃんと計画を立てて

岡田教育長
各委員
岡田教育長

終わった時に振り返られる活動が果たしてどこまでできているのか。この辺りは次年度以降の小中連携教育でしっかり取組んでいかなければならないと思う。おっしゃるとおりである。

その他はよろしいか。

特になし。

本日、鳥居室長から追加資料として説明していただいたことで、教育委員会としてどういった取組を進めているのかということと少し垣間見ていただけたのではないかと思う。なかなか限られたスタッフの中で取組んでいることであるため、この取組を市内全域に浸透させていくことになかなかその辺りの難しさもあるが、しっかりといただいた内容を踏まえて取組を進めていきたいと改めて思った。

それから冒頭に杉野本委員からお話していただいた内容で、やはり授業改善をするための時間や余裕を作るために、そこを何とかしていかなければならないと思った。学校の校長会の中でも、学校の行事の見直しがされていて、本当に必要な行事なのかということも踏まえて、検討も始まっている。今、教育委員会も是非その場に入れてほしいと話をしているため、学校の声もしっかりと聞きながら教職員の働き方改革に少しでもつながることと何ができるのかと改めて今、勉強したいと思っている。

その他はよろしいか。

各委員

特になし。

4 その他

(1) その他

岡田教育長
日ノ原係長
岡田教育長

事務局からその他何かあるか。

特になし。

その他のところで、委員方からご報告やご質問があればお願いします。

各委員

特になし。

次回定例会日程

定例会 11月19日(金) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

次々回定例会日程

定例会 12月20日(月) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

14:55 終了